

令和6年度 第5回長浜市市民協働推進会議 次第

（ 令和7年2月6日（木）午後3時30分～
長浜市役所本庁舎5階 5－A会議室 ）

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

（1）市民協働推進計画の改定について

【資料1・2・3】

（2）市民協働推進計画に基づく協働の仕組みづくりの取組について

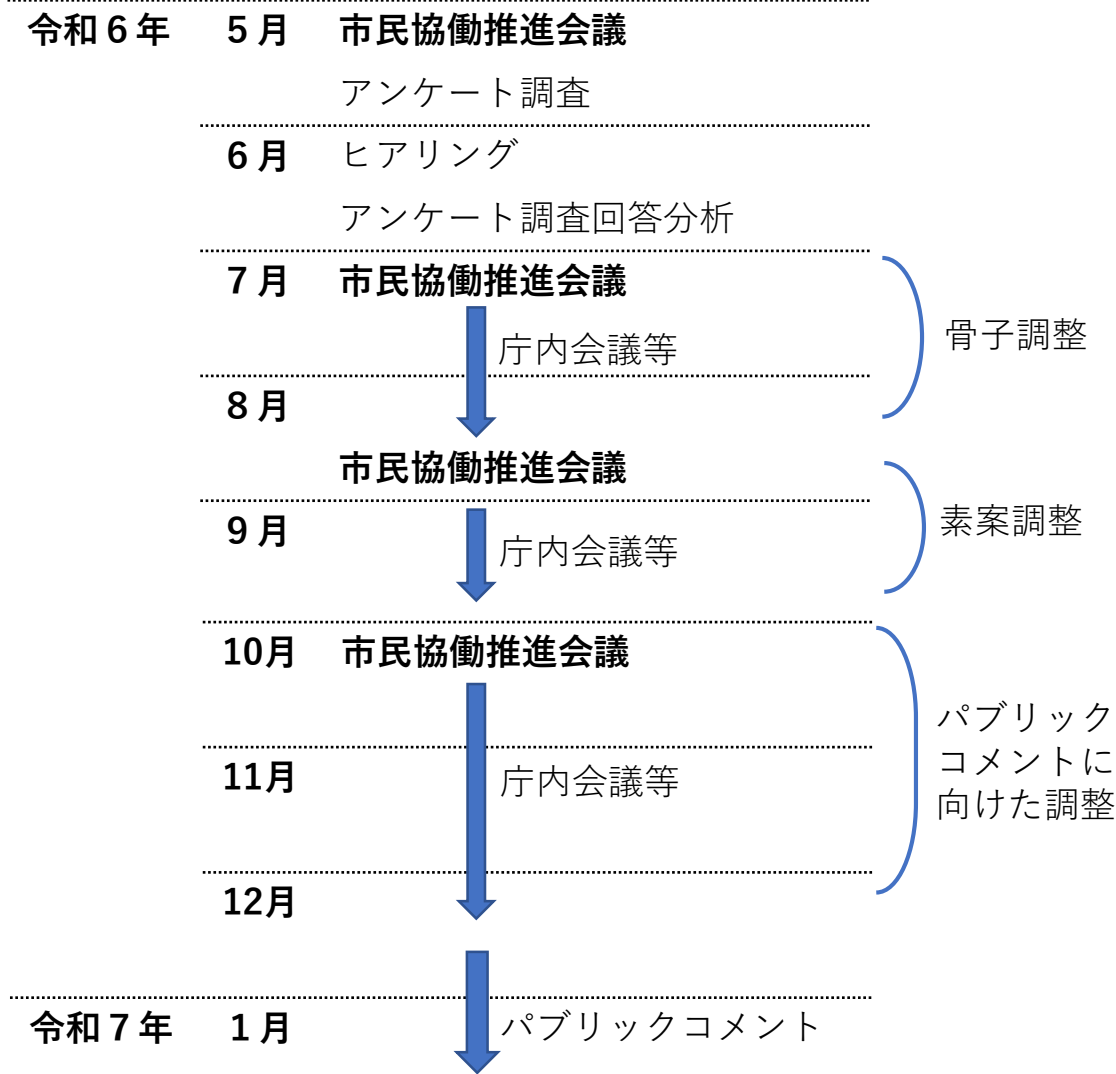
【資料4】

4 その他

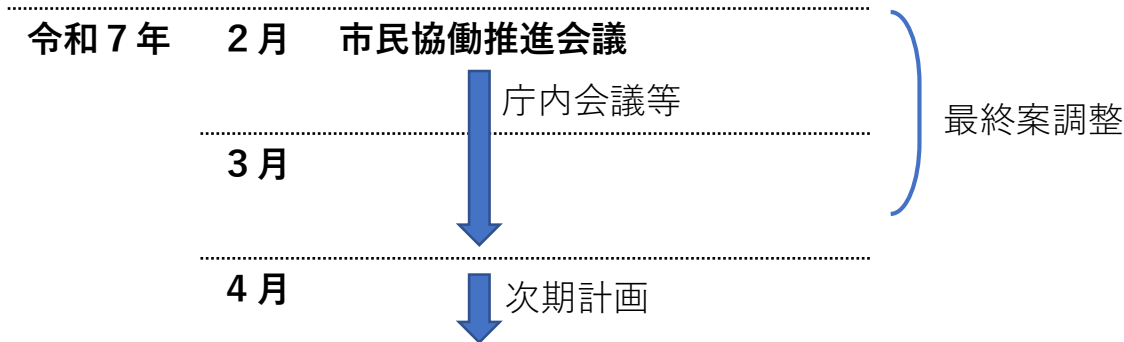
5 閉 会

長浜市市民協働推進計画の改定について

これまでの経過



今後のスケジュール



市民協働を推進する9つの仕組みづくり

資料4

基本施策（9つの協働の仕組み）			事業例
01	多様な主体の協働を進める仕組みづくり	中間支援機能の強化をはじめとする、多様な主体間の連携を促進する仕組みをつくる	中間支援機能の強化
02	地域づくりを推進する仕組みづくり	地域づくりを担う組織の機能強化を図るなど、地域づくりを活性化する仕組みをつくる	まちづくりセンターの機能強化
03	みんなで議論する話し合いの仕組みづくり	みんなが当事者意識を持って活発な議論が行えるような話し合いの仕組みをつくる	円卓会議の開催
04	新しいお金の流れを事業支援に活用する仕組みづくり	市民協働のまちづくりの推進に必要な資金の調達と効果的な活用を図る仕組みをつくる	コミュニティファンドの設立
05	新しい形の共助を構築する仕組みづくり	シェアリングエコノミーの推進による新しい形の共助を推進する仕組みをつくる	シェアリングエコノミーの推進
06	情報共有・活用を図る仕組みづくり	各主体間の情報のやり取りを活性化する仕組みをつくる	情報共有サイトの創設
07	協働の担い手を育成・確保する仕組みづくり	市民協働の担い手となる人材を育成・確保する仕組みをつくる	コミュニティカレッジの開催
08	市が保有する情報を活用して課題を解決する仕組みづくり	市が保有するデータを活用し、新たな視点から地域課題を発見・解決する仕組みをつくる	データの公開と活用推進
09	先端技術を活用した地域課題を発見・解決する仕組みづくり	先端技術を活用してこれまでにない新しい方法で地域課題を解決する仕組みをつくる	実証実験への参画

1

担い手不足を解消するため、引き続き多様な人が関わりやすい活動を推進する取組を重視

- ✓ 想定を上回る人口減少やライフスタイルの多様化に伴う忙しさにより、特に担い手不足が深刻化
 - ⇒ 自分にあった関わり方ができる組織・活動を増やす取組や参加していない人の目線で日常を少し変える取組に力を入れることで、**若者・女性・関係人口を含む幅広い人が関わりやすいまちづくりを推進**

多様な人が関わりやすい活動に変えていくために必要な3つの視点

① 楽しい

- ・ 世代によって、活動をはじめるときかけや続けるうえで大事にするポイントが違うことを理解する

② 多様な関わり方ができる

- ・ ライフスタイルの変化や忙しさへの対応が必要
- ・ 後継者が出にくい既存の仕組みを変えることも必要

③ 個人の主体性が発揮できる

- ・ 個人の「やってみたい!」が実現できることで、やらされ感がなくなる
- ・ 個人の主体性が発揮できると、団体としての主体性も生まれてくる

若い力を地域の力に ～実践から感じたポイント～

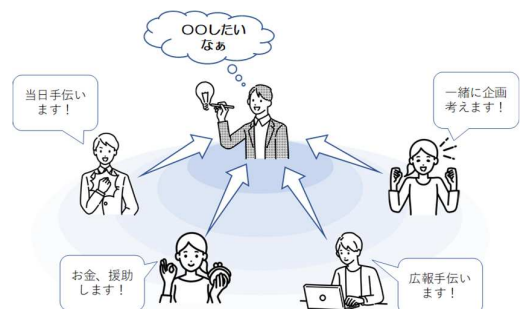
	シニア層	ワカモノ
はじめるきっかけ	使命感・義務感	おもしろそう
進め方・手法	形式的	実質的
継続	使命感・義務感	楽しい
活動の視点	地域課題の解決	未来思考

ジチラボ vol.02「地域を支援するとは?」話題提供者 馬袋真紀さんのスライドより引用

【出典】：地域づくりを支援する人のためのケースブック（一財）明石コミュニティ創造協会

「自分にあった関わり方ができる社会」

- ・ 多種多様な団体の活動を推進し、自分にあった関わり方ができる活動の機会を増やすことにより、様々な場面で人間関係の交差・拡大が生まれ、さらに活動が活発化する社会



2

1 多様な主体の協働を進める仕組みづくり（令和2～5年度の実績状況）

各主体単体では解決できない課題を、多様な主体の協働により解決を図るため、各主体のつなぎ支援など、中間支援機能の強化をはじめとする、多様な主体間の連携を促進する仕組みをつくりまします

◆中間支援組織の検討

- ・ 令和2年6～9月にかけて24の地域づくり協議会と意見交換を実施
 - ⇒ 意見交換等を踏まえて、中間支援組織が担う支援機能や組織形態について整理
- ・ 令和3年度に市民協働センターの法人化に向けて具体的に検討
 - ⇒ 法人化後の運営の担い手不足や整備したい中間支援機能と現状との間に大きな隔たり
 - ⇒ 中間支援機能を強化すべく、市民協働センターと協働推進系の機能や役割を再整理（R4～）

◆中間支援に軸足を置いた取組

●つなぎ支援（他機関とのマッチング・連携）

- ・ 地域づくり協議会や市民活動団体とのマッチング
- ・ さざなみタウンの各主体が連携し、各種事業を実施



●伴走支援（会議の支援や事業の支援）

- ・ 各地域づくり協議会や市民活動団体の活動を支援
- ・ 運営のアドバイスやファシリテーションなどの会議の支援
- ・ 企画のアイデア出しや当日の運営サポートなどの事業の支援



●活動に役立つセミナー・講座の開催

- ・ 外部講師をお呼びし、地域づくりや市民活動に役立つセミナーや講座を開催



●資金調達の支援

- ・ 助成金情報の案内や助成金申請のサポート等

3

1 多様な主体の協働を進める仕組みづくり（令和6年度の実績状況）

各主体単体では解決できない課題を、多様な主体の協働により解決を図るため、各主体のつなぎ支援など、中間支援機能の強化をはじめとする、多様な主体間の連携を促進する仕組みをつくりまします

◆市民協働センターの活動

市民活動支援

- ・ 市民活動団体データベース管理 【登録団体 83団体】
各団体への定期メール・お知らせ、ホームページへの掲載
- ・ 市民、市民活動団体、高等学校、医院の個別相談対応
（内容）団体設立／助成金申請／企画づくり／事業構想／
他団体とのマッチング／広報

地域づくり協議会支援

- ・ 24地区の地域づくり協議会、地域活力プランナーの支援
訪問相談、メールニュース配信、個別相談
（内容）話し合いの場づくり／他団体とのマッチング／
計画づくり／組織活性化／助成金申請サポート／
広報／視察先選定

情報収集・発信・印刷

- ・ 市民協働センターホームページ運営
- ・ 市広報「さざなみ通信」、ぼてじゃこ特集記事掲載
- ・ Facebookによる情報発信 【フォロワー1,037人】
- ・ 市民協働チャンネル「こほくらす」 【配信済 5回】
- ・ 印刷室（大型プリンター、輪転機等） 【利用 265件】



資金調達支援

- ・ 活動に必要な資金調達方法の相談、助成団体との合同相談会
- ・ 各種補助金等の情報収集、プッシュ型情報提供
- ・ 市民協働セミナー3「知って活用!助成金」のいろいろ開催

相談

- ・ 個別相談 81件
- ・ 定期相談「相談と雑談の間ワークスペース」の開設
毎月 第2木曜日 10時～19時半 【12回】
毎月 第4土曜日 13時～17時※ 【12回】
長浜まちづくりセンター、きのもと交遊館で開催
- ・ 「どうする!?大相談会」 4 支援機関による合同相談

人づくり・つながりづくり

- ・ 市民協働セミナー 【3講座】
- ・ 市民活動に役立つ「学びの4レンチャン」 【4講座5回】
- ・ 「こほくらす」動画編集ワークショップ 【3講座】
- ・ 県内各市民活動支援センターとの意見交換会・研修 【4回】
- ・ 中間支援機関との意見交換、事業協働
「市民活動団体・ボランティア団体伴走支援 + 力3」
「ソーシャルビジネスなにそれ?セミナー」
「どうする!?大相談会」「Let'sボランティア講座」
- ・ さざなみタウン事業共催「長浜まちなかフェスタ」「さざなみタウン5周年イベント」「みんなでつなげる編みものアート」「わ!輪!O!! みんなでつなげる広場」
- ・ 「つくる未来展」開催（米原市主官／びわ湖東北部地域連携協議会）

組織体制

- スタッフ 所長、コーディネーター（1人）
- 事務室 さざなみタウン（ながはま文化福祉プラザ内）
- 常駐日 水曜日・木曜日（月、金、土曜日は訪問等）

4

1 多様な主体の協働を進める仕組みづくり（令和6年度の取組状況）

各主体単体では解決できない課題を、多様な主体の協働により解決を図るため、各主体のつなぎ支援など、中間支援機能の強化をはじめとする、多様な主体間の連携を促進する仕組みをつくります

◆さざなみタウンでの主体間連携

（文化福祉プラザ、まちづくりセンター、図書館、市民協働センター、社会福祉協議会、ビジネスサポートセンター、商工会議所）

「ソーシャルビジネスなにそれ？セミナー」



ソーシャルビジネスに関する長浜初開催のセミナー。参加者：23人

「どうする!? 大相談会」9/28（土）

ボランティアからソーシャルビジネスまで、地域での幅広い活動に関する合同相談会。相談対応：日本政策金融公庫2人、長浜ビジネスサポート協議会1人、ボランティアセンター（長浜社協）2人、市民協働センター2人、相談件数：7件

「長浜まちなかフェスタ」10/27（日）



「つなげようこの笑顔 次の5年 10年！」をテーマに、さざなみタウン全館を使った地域文化祭。さざなみタウン全機関連携イベント。

オープニング・クロージング、子どもDoまんなか広場、廃食油の活用、防災・防犯フェア、北星高&農高サイトによる作品販売、健康チェック&相談、バザー、eスポーツ、フードコート、マルシェ&キッチンカー、ふるまい餅ほか

「みんなでつなげる編みものアート」



「私たちは“まち”にどのように関われるのか」をテーマに、編みものを通して、親しみやすく魅力あるまちの空間を人々が自ら創ることにチャレンジするアートイベント。

「編みもの作品募集」11/7～1/30、「はじめての編みものワークショップ」12/1、「編みもの自習室」12/12、1/9「ボンボンマスコットづくり」12/22、「編みものつなぎワークショップ」1/29、30

展示期間：2024.12/22（日）～3/11（火）

「わ！輪！〇!! みんなでつながる広場」3/2（日）

「つくる未来展」2/28～3/2

長浜・米原・彦根で活動する地域団体や市民活動団体が活動を紹介する「つくる未来展」（米原市・彦根市連携事業）出展団体23団体と「若者コメンテーター」が活動への意見や質問を出し合い、「未来」についてみんなで考える交流イベント。

「さざなみタウン開館5周年記念マンスリーイベント」12月1～22日



さざなみタウン開館5周年記念として、1か月間に講座、交流会、イベント等を連続開催。

12/1「さざなみ交流発表会」「長浜ビジネスプランコンテスト公開プレゼン」、12/1～22「長浜図書館の不思議な扉～怪盗3373からの挑戦状」、12/1,12,22「みんなでつなげる編みものアート」、12/5「サロン30周年お祝い記念講演会」、12/9「地域共生フォーラム」12/7「ボランティア養成講座 Let'sボランティア」、12/14「こどもDoまんなか広場」「風船ギタープロジェクト」、12/15,16「スペシャルおはなし会・はぐはぐおはなし会」、12/21「災害ボランティア養成講座 雪かき道場」、12/22「クリスマスイベント」



5

1 多様な主体の協働を進める仕組みづくり

各主体単体では解決できない課題を、多様な主体の協働により解決を図るため、各主体のつなぎ支援など、中間支援機能の強化をはじめとする、多様な主体間の連携を促進する仕組みをつくります

【取組の評価】

- ・機能や役割を再整理し、令和4年度から中間支援に軸足を置いた取組を実施
- ・つなぎ支援や伴走支援などにより、市民活動や地域づくり活動が推進
- ・中間支援組織同士の連携により、支援の幅の広がり

【課題】

- ・多様な主体の協働を進めるには安定して中間支援機能を提供できるようにすることが必要
- ・そのためには、さらなる中間支援機能の強化・充実が求められる

【今後の方向性】

- ・次期計画において「多様な主体をつなげる・支える仕組みづくり」に位置付け
- ・引き続き中間支援に軸足を置きながら、機能の質の向上や体制の強化など
中間支援機能の強化・充実に向けて取り組んでいく

6

2 地域づくりを推進する仕組みづくり（令和2～5年度の実施状況）

地域づくり協議会の事務局機能の強化やまちづくりセンターの役割明確化により、地域づくりを担う組織の機能強化を図るとともに、参加しやすい組織づくりを推進するなど、地域づくりを活性化する仕組みをつくりま

◆地域活力プランナーの配置

- ・地域づくり協議会の活動をコーディネートする人材として希望する地域づくり協議会に地域活力プランナー制度を配置

年度	R2	R3	R4	R5
地域	13	12	10	10
人数	20	21	17	20



◆まちづくりセンターの指定管理制度の活用促進と整備

- ・地域づくりの拠点となるまちづくりセンターについて指定管理制度の活用促進
R3～ 浅井湯田地域づくり協議会、下草野地域づくり協議会
R4～ 田根地区・地域づくり協議会、びわ地域づくり協議会
- ・老朽化や耐震性などの課題を抱えるまちづくりセンターを順次、整備改修

◆関係人口による地域づくりの活性化

- ・田根地区ではこれまでから大学生を地域に呼び込む取組みを実施されており、この取組を支援すべく地域おこし協力隊を配置し、大学との連携を拡大
- ・その他の地域でも大学と連携して地域イベントを実施

◆その他の地域づくり協議会への支援

- ・地域づくり協議会の活動事例を学ぶセミナーの開催
- ・市民協働センターが地域づくり協議会の活動支援

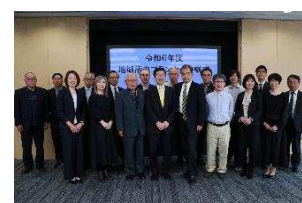
7

2 地域づくりを推進する仕組みづくり（令和6年度の実施状況）

地域づくり協議会の事務局機能の強化やまちづくりセンターの役割明確化により、地域づくりを担う組織の機能強化を図るとともに、参加しやすい組織づくりを推進するなど、地域づくりを活性化する仕組みをつくりま

◆地域活力プランナーの設置

- ・地域活力プランナーを13地域に23人設置
- ・4月25日（木）に令和6年度委嘱式を開催
- ・地域活力プランナー同士が、相互に取組を理解し、応援し合える関係を構築する場として、地域活力プランナー連絡会を3回開催
6月5日（水）：研修、意見交換
11月20日（水）：研修、意見交換
3月12日（水）：活動報告会（活動報告・意見交換）（予定）



◆まちづくりセンターの指定管理制度活用促進

- ・令和6年度から七尾まちづくりセンターが指定管理に
19のまちづくりセンターのうち17が指定管理制度を活用



◆まちづくりセンターの整備

- ・地域づくりの拠点となるまちづくりセンターについて、老朽化や耐震性などの課題を抱える「神田まちづくりセンター」を整備
令和5年9月～令和7年3月 改築工事
令和7年4月～ グランドオープン予定

◆その他の地域づくり協議会への支援

- ・地域づくり協議会の活動事例を学ぶセミナーを開催
- ・市民協働センターのコーディネーターによる相談対応
- ・地域づくり協議会の活動支援



神田まちづくりセンター

8

2 地域づくりを推進する仕組みづくり（令和6年度の実施状況）

地域づくり協議会の事務局機能の強化やまちづくりセンターの役割明確化により、地域づくりを担う組織の機能強化を図るとともに、参加しやすい組織づくりを推進するなど、地域づくりを活性化する仕組みをつくりま

◆関係人口による地域づくりの活性化

◇田根地区における大学生のネットワークづくり

- ・地域おこし協力隊が中心になって田根地区に関わる大学生が増加
(大学のゼミ関係)
慶應義塾大学・小林研究会、専修大学・大崎ゼミ
(大学のプログラム関係)
東京大学・フィールドスタディ型政策協働プログラム
京都橘大学・クロスオーバー型課題解決プロジェクト
早稲田大学・地域連携ワークショップ
(その他)
立正大学、人間環境大学、その他地域の大学生 等
- ・8月に慶應義塾大学、東京大学、早稲田大学が田根地区を訪問された際に
他大学や地域住民も交えた交流会を開催
- ・関わった大学生が継続して地域に関われる仕組みを検討



◇地域と大学との連携

- ・長浜まちなか地域づくり連合会の米川まつりにおいて、滋賀県立大学や
長浜バイオ大学が運営に参画
- ・武蔵野美術大学が産学連携プロジェクトにより余呉地域を中心に活動

9

2 地域づくりを推進する仕組みづくり

地域づくり協議会の事務局機能の強化やまちづくりセンターの役割明確化により、地域づくりを担う組織の機能強化を図るとともに、参加しやすい組織づくりを推進するなど、地域づくりを活性化する仕組みをつくりま

【取組の評価】

- ・ソフト・ハードの両面から地域づくり活動を支援
- ・地域の特色を活かした取組の推進やまちづくりセンターの利用が活発化
- ・様々な大学との連携により、地域に関わる大学生が増加

【課題】

- ・各種団体においてこれまで以上に担い手不足が深刻化
- ・関わる人が限られているため、多様な形で関わる人を増やすことが必要

【今後の方向性】

- ・次期計画において「関わりやすさで人を呼び込む仕組みづくり」に位置付け
- ・地域づくり協議会をはじめ、各種団体において、女性の参画推進を進めるなど
多様な人に関わってもらえるよう取組を進めていく

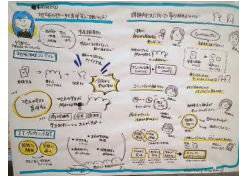
10

3 みんなで議論する話し合いの仕組みづくり（令和2～5年度の実施状況）

関係者が当事者として対等な立場で議論できる場を設置するなど、みんなが当事者意識を持って活発な議論を行い、相互理解と協働へとつながっていく場となるような話し合いの仕組みをつくりま

◆（地域）円卓会議の開催

- ・（地域）円卓会議とは、すべてのステークホルダー（利害関係者）が、当事者として対等な立場で参加し、地域の困りごとなどを社会課題として共有する会議の方法
- ・ 円卓会議の手法を学ぶ研修会を市民活動団体や地域づくり協議会、市職員を対象に実施するとともに、円卓会議の手法を活用して会議を開催
- ・ 円卓会議と併せてグラフィックレコーディングの手法も紹介



◆話し合いの場づくりの支援や研修の開催

- ・ 多様な人が関わりやすい地域づくり活動に変えていくために、話し合いの場づくりの支援や研修等を開催
- ・ 話し合いの場づくりの支援として、地域づくり協議会において、多様な人の意見が聞けるよう取組を支援
- ・ ファシリテーションや話し合いの場づくりに係る研修の開催



3 みんなで議論する話し合いの仕組みづくり（令和6年度の実施状況）

関係者が当事者として対等な立場で議論できる場を設置するなど、みんなが当事者意識を持って活発な議論を行い、相互理解と協働へとつながっていく場となるような話し合いの仕組みをつくりま

◆話し合いの場づくり

●各種協議においてホワイトボードを活用

- ・ 市民活躍課内の各種協議で、ホワイトボードを活用し、話し合いの内容を可視化
- ・ 地域づくり協議会、市民活動団体との協議でもホワイトボードを活用

また、地域づくり協議会の代表者会議などで、話し合いの重要性について説明



●話し合いの場づくりに係るセミナーの開催

- ・ 「みんなの合意を作るには？」というテーマで、会議とは何かやホワイトボードミーティングについて学ぶセミナーを開催



3 みんなで議論する話し合いの仕組みづくり

関係者が当事者として対等な立場で議論できる場を設置するなど、みんなが当事者意識を持って活発な議論を行い、相互理解と協働へとつながっていく場となるような話し合いの仕組みをつくりま

【取組の評価】

- ・様々な場面で話し合いの重要性を説明するとともに、話し合いに関する研修やセミナーを開催
- ・話し合いの場づくりの視点で地域づくり協議会を伴走支援
- ・少しずつではあるものの、話し合いの場づくりの考えが浸透

【課題】

- ・まだまだ地域内では、話し合いの場づくりの意義や重要性が認知されていない
- ・地域の話し合いの場を見直していくには、話し合いの場づくりができる人材が必要

【今後の方向性】

- ・次期計画において「みんなで話し合う仕組みづくり」に位置付け
- ・引き続き、話し合いの場づくりの意義や効果などの周知を図っていく
- ・みんなで話し合える場を定着させていくために、話し合いの場づくりの知識やノウハウを持った人材を育成していく

13

4 新しいお金の流れを事業支援に活用する仕組みづくり（令和2～6年度を取組状況）

寄付やふるさと納税等を活用した基金を設置し、地域課題の解決に取り組む団体を支援するなど、多様な主体が連携し、新しいお金の流れを創出することで、活動に必要な資金の円滑な調達や効果的な活用を図る仕組みをつくりま

◆新しいお金の流れの検討

- ・中間支援組織の法人化スケジュールの見直しに伴い、コミュニティファンドの検討よりも、事業の再整理や地域づくり協議会への支援機能の検討を優先
- ・コミュニティファンドに限らず、お金を通して活動に関わる取組の情報収集
例）ふるさと納税を活用した市民活動の支援など

◆第3回市民協働セミナー3「知って活用!“助成金”のいろいろ」の開催

日にち：令和6年11月26日

内容：助成団体（5団体）が説明し、助成金の基礎的な内容や助成金の紹介
助成金への願い・想いを直接話しながら交流。

説明団体：「未来ファンドおうみ」「夏原グラント」「できるコトづくり制度」
「赤い羽根共同募金」「市民協働事業」

【参加者7団体】

◆助成団体との合同相談会の開催

日にち：令和7年2月13日

助成金：長浜市民芸術文化創造協議会 文化芸術サポート補助金「Nasist」



14

4 新しいお金の流れを事業支援に活用する仕組みづくり

寄付やふるさと納税等を活用した基金を設置し、地域課題の解決に取り組む団体を支援するなど、多様な主体が連携し、新しいお金の流れを創出することで、活動に必要な資金の円滑な調達や効果的な活用を図る仕組みをつくります

【取組の評価】

- ・新しいお金の流れの創出には至らなかったものの、資金調達に関するセミナーの開催や専門機関との連携など、可能な範囲で各種団体の資金調達を支援

【課題】

- ・多様な関わり方として、お金を通して活動に関われる機会を創ることが必要

【今後の方向性】

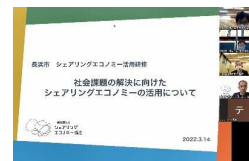
- ・次期計画において「これからの共有の形を広める仕組みづくり」に位置付け
- ・他自治体の事例などの調査研究を行いながら、お金を通して活動を支援できる関わり方を検討していく

5 新しい形の共助を構築する仕組みづくり（令和2～5年度の取組状況）

活用されていない個人や組織の資源を活用し、個人間で支え合いやシェアを行う取組を推進するなど、公共サービスを補完する新しい形の共助を推進する仕組みをつくります

◆シェアリングエコノミーに関する職員研修の開催

- ・シェアリングエコノミーの理解を深めるため、市職員対象の研修を令和2・3年度に開催
- ・事業者からシェアサービスの概要や事例を紹介してもらう内容や、協会の方からシェアリングエコノミーを取り巻く状況について説明



◆シェアリングエコノミーの普及に取り組む地域おこし協力隊

- ・「長浜市内でのシェアリングエコノミーの普及」をテーマに地域おこし協力隊を募集し1名を採用、令和5年11月から活動開始
- ・市民の困りごとを解決するための手段としてシェアサービスを活用してもらえよう活動中



◆シェアサービス事業者との連携

- ・シェアサービス事業者と長浜市が連携して取組を実施
- ・地方創生を推進する複業マッチングプラットフォーム「複業クラウド for Public」を展開する㈱Another worksと連携し、行政へ複業人材を登用する実証実験を実施



5 新しい形の共助を構築する仕組みづくり（令和6年度の実施状況）

活用されていない個人や組織の資源を活用し、個人間で支え合いやシェアを行う取組を推進するなど、公共サービスを補完する新しい形の共助を推進する仕組みをつくります

◆オンライン勉強会やSHARE SUMMIT2024に参加

- ・シェアリングシティ推進協議会が適宜、開催するオンライン勉強会に参加
- ・様々なテーマで自治体や事業者からの事例発表を中心とした内容
- ・シェアに関わる事業者や自治体が集まるSHARE SUMMIT2024に参加



◆シェアリングエコノミーの普及に取り組む地域おこし協力隊

- ・令和5年11月から「長浜市内でのシェアリングエコノミーの普及」をテーマに地域おこし協力隊が活動
- ・市内で活動する中で、シェアサービスの活用可能性を模索



◆ごみの減量に向けた事業者との協定締結

- ・環境保全課において、ごみの減量やリユースを促進するため、「おいくら（家具や家電のリユースプラットフォーム）」及び「ジモティー（不用品を地域で譲り合いできるプラットフォーム）」を運営する事業者と協定を締結



5 新しい形の共助を構築する仕組みづくり（令和6年度の実施状況）

活用されていない個人や組織の資源を活用し、個人間で支え合いやシェアを行う取組を推進するなど、公共サービスを補完する新しい形の共助を推進する仕組みをつくります

◆シェアリングエコノミーに関するセミナーや職員研修の開催

- ・スペースの活用に興味のある方を対象にセミナーを開催（12名参加）
日にち：8月1日（木）

ゲスト：スペースシェア総研 所長 積田氏

ボードゲームスペースRESPAWN 山瀬氏

長浜市地域おこし協力隊 辻本氏



- ・シェアリングエコノミーの活用推進に向けた職員研修を開催（19名参加）
日にち：12月17日（火）

ゲスト：環境保全課職員

長浜市地域おこし協力隊 辻本氏



5 新しい形の共助を構築する仕組みづくり

活用されていない個人や組織の資源を活用し、個人間で支え合いやシェアを行う取組を推進するなど、公共サービスを補完する新しい形の共助を推進する仕組みをつくります

【取組の評価】

- ・市職員に対して、継続して職員研修を実施することで、シェアの可能性やシェアサービスの特徴、具体的な事例などを周知
- ・シェアリングエコノミーの普及に取り組む地域おこし協力隊を採用し、地域内でのサービスの活用事例を創出
- ・シェアサービス事業者と長浜市の連携が実現

【課題】

- ・地域内での活用事例はあるものの、一部に限られており、認知されていないことやオンラインでやりとりすることのハードルがある
- ・地域内で活用事例を着実に増やしていくことが必要

【今後の方向性】

- ・次期計画において「これからの共有の形を広める仕組みづくり」に位置付け
- ・引き続き、シェアサービスの周知を図るとともに、地域内での活用事例を増やせるよう地域おこし協力隊と連携しながら取り組んでいく

19

6 情報共有・活用を図る仕組みづくり（令和2～6年度の取組状況）

情報収集・発信の強化や各主体間の情報ネットワークの構築など、各主体間の情報のやり取りを活性化する仕組みをつくります

◆SNS等による情報発信

- ・FacebookやInstagramを活用し、各種団体の活動を発信
- ・自治会長に対して市の情報をLINEを活用して情報発信
- ・市民活動団体や地域づくり協議会に対して適宜、情報発信



◆活動団体の情報収集・掲載

- ・市内で活動する市民活動団体などの情報の収集と発信
市民協働センター登録団体数：84団体（R6.5時点）
- ・「つくる未来展」の開催（米原市主管／びわ湖東北部地域連携協議会）



◆ローカルメディアと連携した情報発信 “みんなでつくる市民協働チャンネル「こほくらす」”配信

- ・地元のローカルメディアと市との市民協働事業として、地域づくり協議会や市民活動団体の取組を、インターネット番組「こほくらす」としてYouTubeで発信（奇数月第4土曜日18時～、6回配信）（R5～）
- ・令和6年度の発信内容は次のとおり
地 域：びわ、北郷里、浅井湯田、西浅井
市民活動：ポップカルチャーフェスティバル
- ・動画撮影と編集のワークショップ開催（3回）



20

6 情報共有・活用を図る仕組みづくり（令和6年度の取組状況）

情報収集・発信の強化や各主体間の情報ネットワークの構築など、各主体間の情報のやり取りを活性化する仕組みをつくります

◆市民活動をメディアに発信「“みんなが”定例記者発表」

- ・市内で、地域活動・市民活動、地域福祉活動、生涯学習に取り組む方が、日ごろの活動の内容や活動に込めた思いを、新聞などのメディアの方に、共同で記者発表する場
- ・活動されている方から、活動が知られていない、団体の認知度が低い、活動をPRする場がないなどといった声を受け企画
- ・12月から開催し、2か月に1回開催
(12/6 4団体、2/6 4団体)



21

6 情報共有・活用を図る仕組みづくり

情報収集・発信の強化や各主体間の情報ネットワークの構築など、各主体間の情報のやり取りを活性化する仕組みをつくります

【取組の評価】

- ・SNSを通しての発信だけでなく、ローカルメディアと連携した発信、メディアに対して発信できる機会の創出など、様々な形で情報を発信

【課題】

- ・団体によって、情報発信スキルなどの差があり、ホームページやSNSの活用状況が異なっている
- ・各種団体において、様々な形で情報を発信できるようにしていくことが必要

【今後の方向性】

- ・次期計画において「関わりやすさで人を呼び込む仕組みづくり」に位置付け
- ・市として様々な形で情報発信できる機会を設けていくとともに、各種団体においても情報を発信してもらえるよう支援していく

22

7 協働の担い手を育成・確保する仕組みづくり（令和2～5年度の実施状況）

協働に必要なスキルを持った人材の育成、市民が市民を教える学びの場の創出や多様な働き方の推進による協働事業の活性化など、市民協働の担い手となる人材を育成・確保する仕組みをつくりま

◆コミュニティカレッジの開催

- ・市民が「センセイ」「セイト」となり、学びを通してつながる場
- ・実行委員会形式で市民と一緒に事業を企画・実施
- ・令和元年度に始まってから毎年継続して実施



◆高校生Challenge&Creation プロジェクト ⇒ 長浜市役所まちあそび部

- ・ふるさと回帰を目的に、高校生が地域の魅力を知るための取組として実施
- ・令和4年度から若者の目線で楽しみながらまちに関わる「まちあそび」に内容を変え、若者目線のゆるいまちづくりとして実施
- ・若者から出たアイデアに地域資源を掛け合わせた「まちあそび」を実施



◆活動に役立つ各種セミナーの開催

- ・様々な講師をお呼びし、地域活動や市民活動に役立つ講座を開催
- ・ファシリテーションやデザイン、Canvaなど、普段の活動に役立つ内容から実績がある方をお呼びし、実体験を基にした体験や事例を学ぶ内容など



23

7 協働の担い手を育成・確保する仕組みづくり（令和6年度の実施状況）

協働に必要なスキルを持った人材の育成、市民が市民を教える学びの場の創出や多様な働き方の推進による協働事業の活性化など、市民協働の担い手となる人材を育成・確保する仕組みをつくりま

◆長浜市役所まちあそび部

- ・高校生・大学生による若者目線のゆるいまちづくりとして、令和5年度から長浜市役所まちあそび部として実施
- ・長浜市・米原市・彦根市在住・在学中の高校生・大学生等がチームとなって、地域の大人と協力しながら、「まちあそび」を実践する取組
- ・今年度の部員数 高校生4校11名、大学生3校16名
- ・まちあそびとして竹から準備した流しそうめんやピザづくり体験など、地域の方の協力を得て行っており、若者目線のゆるいまちづくりを模索している



竹から準備した流しそうめん



ピザづくり体験



まちあそび部 見学会

24

7 協働の担い手を育成・確保する仕組みづくり（令和6年度の取組状況）

協働に必要なスキルを持った人材の育成、市民が市民を教える学びの場の創出や多様な働き方の推進による協働事業の活性化など、市民協働の担い手となる人材を育成・確保する仕組みをつくります

◆コミュニティカレッジ

- ・ 学びを通して、
 - ①多くの市民が楽しみながら、社会に関心を持ってもらう場
 - ②市民同士がつながり、それが新たな市民活動へと飛躍を期待する場
- ・ 実行委員会形式で市民と一緒に事業を企画・実施
- ・ 今年度の実施内容
 - 11月30日（土）9時～17時 / さざなみタウン
 - 50コマの授業、9つのワークショップに延べ約1,000名が参加



◆市民協働セミナー

- ・ “協働”をキーワードに、市民活動や地域づくりなどについて考えるセミナーを開催
- ・ 第1回 テーマ：みんなで考えよう～“地域づくり協議会”のこれから～
(7/3) 講師：仲野 優子さん(認定特定非営利活動法人 しがNPOセンター) 【参加者16名】
- 第2回 テーマ：新しい働き方“協同労働”って？～やりたいことは実現できるの？
(9/24) 講師：柴田 雅美さん(滋賀大学地域連携教育推進センター) 【参加者5名】

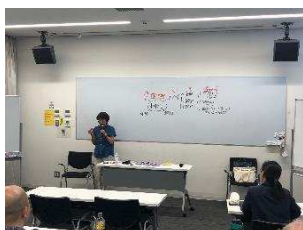
25

7 協働の担い手を育成・確保する仕組みづくり（令和6年度の取組状況）

協働に必要なスキルを持った人材の育成、市民が市民を教える学びの場の創出や多様な働き方の推進による協働事業の活性化など、市民協働の担い手となる人材を育成・確保する仕組みをつくります

◆市民活動に役立つ「学びの4レンチャン」

- ・ 市民活動をされている方に実践的な学びを深めるためのセミナーを連続開催
- ・ 9月～12月で4つのセミナーを開催
 - 第1回 テーマ：みんなの合意を作るには？～会議について学ぶ～
(9/4.11) 講師：西川 実佐子さん(しがNPOセンター理事) 【参加者30名】
 - 第2回 テーマ：活動を継続するには？～お金について学ぶ～
(10/2) 講師：戸田 由美さん(認定ファンドレイザー) 【参加者22名】
 - 第3回 テーマ：活動を広く知ってもらうには～情報発信について学ぶ～
(11/6) 講師：松尾 裕司さん(滋賀県よろず支援拠点コーディネーター) 【参加者14名】
 - 第4回 テーマ：安心して活動するには？～権利関係について学ぶ～
(12/4) 講師：武野 佑輝さん(トゥーマックス行政書士事務所) 【参加者24名】



26

7 協働の担い手を育成・確保する仕組みづくり（令和6年度の実施状況）

協働に必要なスキルを持った人材の育成、市民が市民を教える学びの場の創出や多様な働き方の推進による協働事業の活性化など、市民協働の担い手となる人材を育成・確保する仕組みをつくります

◆地域おこし協力隊制度の活用

- ・協働の担い手づくりを推進するための核となる人材として地域おこし協力隊を募集・採用

令和4年3月～ 空き家を拠点とした大学や企業との連携による地域活性化



堀田隊員



令和4年10月～ 楽しみながら地域に関わる大学生の
ネットワークづくり



中村隊員



令和5年11月～ 長浜市内でのシェアリングエコノミーの普及



辻本隊員



7 協働の担い手を育成・確保する仕組みづくり（令和6年度の実施状況）

協働に必要なスキルを持った人材の育成、市民が市民を教える学びの場の創出や多様な働き方の推進による協働事業の活性化など、市民協働の担い手となる人材を育成・確保する仕組みをつくります

◆相談と雑談の間ワークスペース

- ・市民活動やまちづくり活動をしている人などが「雑談」以上「相談」未満の話ができるフリースペースを月2回（第2木曜日・第4土曜日）開設
さざなみタウンとときのもと交遊館（協働センター北部サテライト）で実施
- ・「市民活動団体・ボランティア団体伴走支援事業　＋力³　チカラキュービック」
「アートお助け！相談室」など、他の支援機関と連携した相談会を開催

◆どうする!?大相談会・ソーシャルビジネスなにそれ?セミナー

- ・活動したい市民の方向けのワンストップな相談会と、ソーシャルビジネスについての認知度をためるためのセミナーを9/28に開催
- ・大相談会は、日本政策金融公庫、長浜ビジネスサポートセンター、長浜市社会福祉協議会・ボランティアセンター、ながはま市民協働センターの4つの支援機関の相談員が対応
- ・ソーシャルビジネスセミナーの講師は、合同会社soraumiの高橋好美さん



相談と相談の門

みんなの「やっかいな問題」を解決したい

ワークスペース

2024.10-12月

※活動場所はすべて「活動の場」にてお知らせいたします。
※参加費はすべて無料です。
※2024年10月10日（土）は「活動の場」にてお知らせいたします。

At. ござなんタウン
(長狭まちづくりセンター) 会議室

(木) 10:00 10/10 11/14 12/12	(土) 13:00 17:00 10/26 12/21
--------------------------------------	--------------------------------------

※10時～15時
「アール・グラーブ」にて
相談室(予約制あり)

※長狭ボランティア
コーディネーター
がサポートします

HP
長狭まちづくりセンター
長狭まちづくりセンター

At. きもちと交流館

土 11:00 11/18 12/2	土 13:00 17:00 11/23
--------------------------	---------------------------

※10時～15時
「アール・グラーブ」にて
相談室(予約制あり)

※長狭ボランティア
コーディネーター
がサポートします

HP
きもちと交流館
きもちと交流館

「なほはす」
なほはす
なほはす
なほはす

HP
なほはす
なほはす

「まちのあそび」
まちのあそび
まちのあそび
まちのあそび

HP
まちのあそび
まちのあそび

0749-65-6525

ソーシャルビジネス

NPO

まちづくり

市民活動

地域活動

地域づくり

ティビジネス

どうする

!?

? !

NPO

まちづくり

市民活動

地域活動

地域づくり

ティビジネス

コミュニティ

相談無料

大相談会

2024年 9月28日(土)

10月10日(木)

10月26日(土)

11月23日(土)

12月21日(土)

まちづくり

市民活動

地域活動

地域づくり

ティビジネス

コミュニティ

まちづくり

市民活動

地域活動

地域づくり

ティビジネス

コミュニティ

2024年 9月28日(土)

10月10日(木)

10月26日(土)

11月23日(土)

12月21日(土)

まちづくり

市民活動

地域活動

地域づくり

ティビジネス

コミュニティ

まちづくり

市民活動

地域活動

地域づくり

ティビジネス

コミュニティ

2024年 9月28日(土)

10月10日(木)

10月26日(土)

11月23日(土)

12月21日(土)

まちづくり

市民活動

地域活動

地域づくり

ティビジネス

コミュニティ

7 協働の担い手を育成・確保する仕組みづくり

協働に必要なスキルを持った人材の育成、市民が市民を教える学びの場の創出や多様な働き方の推進による協働事業の活性化など、市民協働の担い手となる人材を育成・確保する仕組みをつくります

【取組の評価】

- ・ 担い手を増やすために様々な観点で取組を実施
- ・ 継続して取り組むことで、関わる人が増えるなど、広がりが見られる
- ・ 各種団体のニーズも踏まえたセミナーを開催することで活動を支援

【課題】

- ・ 各種取組を軌道に乗せるとともに、担い手となる人材の育成につなげていくことが必要

【今後の方向性】

- ・ 次期計画において「一人ひとりの『やってみよう』を育む仕組みづくり」に位置付け
- ・ 引き続き様々な観点から取組を行い、取組を広げながら関わる人を増やせるよう取り組んでいく

8 市が保有する情報を活用して課題を解決する仕組みづくり（令和2～5年度の実施状況）

多様な主体が、市が保有する公開データを利用して、使い勝手の良い新たなサービスを協働で開発・提供するなど、市が保有するデータを活用し、新たな視点から地域課題を解決する仕組みをつくります

◆オープンガバナンス※セミナーの開催

- ・ オープンガバナンスの理解を深めるセミナーを令和2・3年度に開催
- ・ 講師をお呼びし、オープンガバナンスの概念や必要性などを説明

※オープンガバナンス
市民と行政が、協働で地域の課題解決にあたる市民参加型社会の
公共サービスの枠組み



◆オープンデータ※の活用推進に向けた取組

- ・ オープンデータの活用に向けたイベントを令和4・5年度に開催
- ・ ウィキペディアや写真の切り口でデータの活用について学ぶ
ワークショップ等を開催

※オープンデータ
国や地方公共団体等が保有するデータのうち、誰もがインターネット等を通じて
容易に利用（加工、編集、再配布等）できるような形で公開されたデータ



8 市が保有する情報を活用して課題を解決する仕組みづくり（令和6年度の取組状況）

多様な主体が、市が保有する公開データを利用して、使い勝手の良い新たなサービスを協働で開発・提供するなど、市が保有するデータを活用し、新たな視点から地域課題を解決する仕組みをつくります

◆オープンデータ活用推進事業

- ・WikimediaやOpenStreetMapを活用し、画像や地図のオープンデータに触れるワークショップを予定
- ・地域の団体とも連携し、オープンデータの具体的な活用事例の創出に取り組む



Wikimedia Commons HPより



OpenStreetMap HPより

◆チャレンジ！！オープンガバナンス2024に応募

- ・チャレンジ！！オープンガバナンスとは、市民と自治体がオープンな姿勢で公開データを活用し、協働しながら地域課題に取り組んでいくオープンガバナンスを応援するコンテスト
- ・令和3年度から継続して課題を提出しており、今年度は観光や若者、空き家、若者の4テーマで虎姫高等学校の探究学習と連携し、各課題に対するアイデアを応募

8 市が保有する情報を活用して課題を解決する仕組みづくり

多様な主体が、市が保有する公開データを利用して、使い勝手の良い新たなサービスを協働で開発・提供するなど、市が保有するデータを活用し、新たな視点から地域課題を解決する仕組みをつくります

【取組の評価】

- ・オープンガバナンスの理解やオープンデータの活用につなげるためのセミナーやワークショップを開催
- ・オープンガバナンスに関わるイベントに継続して参加

【課題】

- ・オープンデータの認知度が低く、活用に向けた機運醸成ができていない

【今後の方向性】

- ・次期計画において「一人ひとりの『やってみよう』を育む仕組みづくり」に位置付け
- ・オープンデータの活用推進に向けて、地域内での活用事例を増やし、気運を高めていく

9 先端技術を活用した地域課題を発見・解決する仕組みづくり（令和2～6年度の取組状況）

Society5.0やスマート自治体の実現に向けて取り組まれる実証実験への参画、多様な主体が協働で新しい技術やサービスの開発と利用・普及を進める拠点の設置など、AIやIoTなどの先端技術を活用することにより、これまでにない新しい方法で地域課題を解決する仕組みをつくります

◆DX実証実験プロジェクト

- ・デジタル技術を活用した実証実験に対する支援を通じ、DXによって、地域課題の解決や市民生活の質の向上につなげていくことを目的に令和4年度から実施（デジタル行政推進課）
- ・補助対象経費の2/3以内、1件あたり上限300万円
- ・プロポーザルの結果、令和4年度は3プロジェクトを実施
- ・令和4年度は3件、令和5年度は4件、令和6年度は3件実施



【実証実験のイメージ図】

令和6年度採択プロジェクト

- ・knotPLACE×Coyageによるコミュニティ形成とキャリア創造事業（未来こども若者課）
- ・生成AIを活用した電話対応システムの導入（デジタル行政推進課・総務課）
- ・ノーコードツールを活用した発達相談支援に係る情報のデジタル化・共有事業（しょうがい福祉課）

9 先端技術を活用した地域課題を発見・解決する仕組みづくり

Society5.0やスマート自治体の実現に向けて取り組まれる実証実験への参画、多様な主体が協働で新しい技術やサービスの開発と利用・普及を進める拠点の設置など、AIやIoTなどの先端技術を活用することにより、これまでにない新しい方法で地域課題を解決する仕組みをつくります

【取組の評価】

- ・地域課題の解決や市民生活の質の向上に向けてデジタル技術を活用した実証実験の事例創出
- ・実証実験を検証の上、実装した事例もある

【課題】

- ・多様な主体との協働によりデジタル技術等の活用事例を増やしていくことが必要

【今後の方向性】

- ・次期計画において「一人ひとりの『やってみよう』を育む仕組みづくり」に位置付け
- ・引き続き市としてもデジタル技術等の活用を進めていく

市民協働事業（令和2～6年度の取組状況）

各主体からの提案に基づき、審査機関の審査を経て、多様な主体間の連携のもとで地域の社会課題解決を目指す事業を「市民協働事業」として制度化します

◆市民協働事業

- ・多様な主体の協働による地域の社会課題解決に向けた取組を推進するため、令和4年度に「長浜市市民活動団体支援事業補助金」と「長浜市地域づくり協議会提案事業交付金」を統合
- ・団体と市との協働を進めるため、事業の提案段階から実施・完了に至るまで団体と市の担当部署が連携・協力しながら取り組む『市民協働事業』に改編
- ・令和5年度は8件、令和6年度は15件の事業が採択され、団体と市の協働により実施中



市民

行政

35

市民協働事業（令和6年度の取組状況）

各主体からの提案に基づき、審査機関の審査を経て、多様な主体間の連携のもとで地域の社会課題解決を目指す事業を「市民協働事業」として制度化します

◆令和7年度に実施する事業の募集

- ・令和7年度事業の行政提案型として次の2テーマで募集

	行政提案型協働事業テーマ	担当部署
1	～自分や家族の安心のために～ 今から考える葬儀・相続	長寿推進課
2	子育て応援図書館～高月図書館 こども・子育て応援事業～	生涯学習課

- ・エントリーシートの提出が、市民提案型18件、行政提案型3件の計21件
今後、担当部署と調整を進め、提案書の提出、公開プレゼンテーションを経て採否を決定

提案区分	年数	件数
行政提案型協働事業	1年目	2件
	2年目	1件
市民提案型協働事業	1年目	7件
	2年目	5件
	3年目	6件

36

市民協働事業

各主体からの提案に基づき、審査機関の審査を経て、多様な主体間の連携のもとで地域の社会課題解決を目指す事業を「市民協働事業」として制度化します

【取組の評価】

- ・既存の制度を統合し、団体と行政の協働が進むよう改編
- ・活用しやすい制度となるよう、毎年運用を見直し

【課題】

- ・庁内での市民協働事業への理解や認知を広げていくことが必要
- ・市民協働事業の活用事例を増やし、よりよい協働事例を創出していくことが必要

【今後の方向性】

- ・次期計画において「多様な主体をつなげる・支える仕組みづくり」に位置付け
- ・活用しやすい制度となるよう引き続き見直しを行うとともに、協働の意識を高められるよう取り組んでいく

協働の仕組みづくりの比較について

<現計画>

1. 多様な主体の協働を進める仕組みづくり
2. 地域づくりを推進する仕組みづくり
3. みんなで議論する話し合いの仕組みづくり
4. 新しいお金の流れを事業支援に活用する仕組みづくり
5. 新しい形の共助を構築する仕組みづくり
6. 情報共有・活用を図る仕組みづくり
7. 協働の担い手を育成・確保する仕組みづくり
8. 市が保有する情報を活用して課題を解決する仕組みづくり
9. 先端技術を活用した地域課題を発見・解決する仕組みづくり

- ・ 市民協働事業

<次期計画>

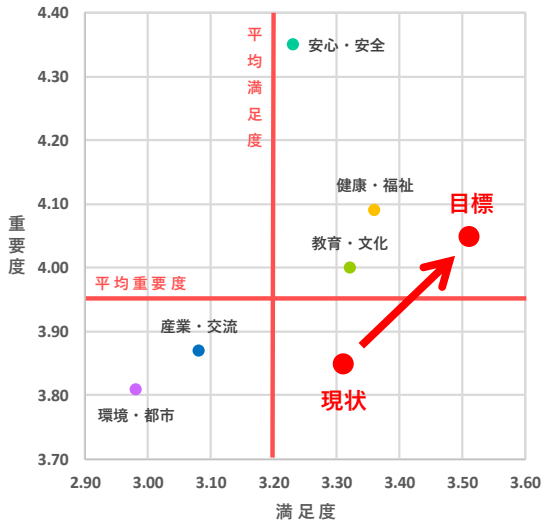
1. みんなで話し合う仕組みづくり
2. 一人ひとりの「やってみよう」を育む仕組みづくり
3. 関わりやすさで人を呼び込む仕組みづくり
4. 多様な主体をつなげる・支える仕組みづくり
5. これからの共有の形を広める仕組みづくり

計画の目標数値の状況

計画の目標

- 市民意識調査の「市民・自治」の項目の満足度と重要度をともに向上させる

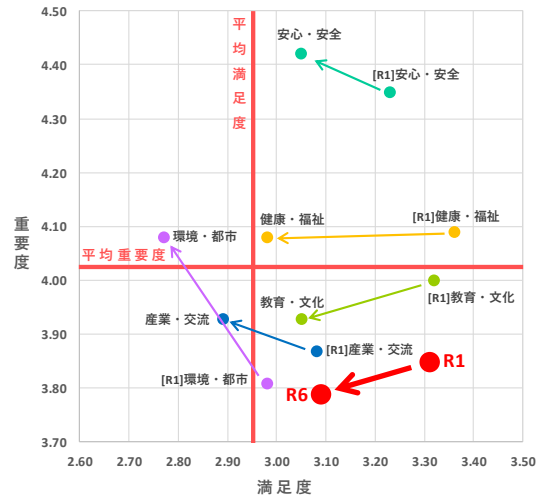
	現状	目標
指標名	R1 (2019)	R6 (2024)
市民・自治の市民満足度	3.31	3.51
市民・自治の市民重要度	3.85	4.05



令和6年度市民意識調査結果

対象：4,000人
回答：1,316（回答率：32.9%）
実施期間：5/1～5/15

指標名	R1 (2019)	R6 (2024)
満足度	3.31	3.09
重要度	3.85	3.79



- R1→R6を比較すると、満足度は全体的に低下しているものの、市民・自治は全項目の中で、一番高い値となっている
- 一方で重要度は、市民・自治はR1と比べ低下しており、全項目の中でも一番低い値となっている

39

計画の目標数値・推進体制

◆計画の目標数値

- 計画の目標数値として毎年実施している市民意識調査における市民・自治の「満足度」「重要度」の数値を採用
- 「満足度」「重要度」を全項目と比較して平均以上にする目標であったものの、様々な社会的要因に数値が大きく影響
- 事業の効果などが捉えにくいため、効果をとらえやすい目標数値にすることが必要

◆計画の推進体制

- 9つの仕組みづくりごとに会議を設置することに至らなかったものの、適宜、専門家から意見をもらいながら仕組みづくりを推進
- 多様な意見なども踏まえながら仕組みづくりを推進できる体制が必要

<図表10：推進体制と仕組みづくりの流れ>

年 度		R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
最 重 点 事 項	中間支援組織	法人化検討		機能強化		
	市民協働事業			制度設計	開始	
推 進 体 制	9つの仕組みづくり (基本施策)	一部着手	本格着手	段階的に着手		9つすべて 着手
	9つの仕組み会議・ 関係者間協議	段階的に設置・開催				9つすべて 設置・開催
	推進エンジン会議 (スペシャルチーム)	毎年度設置（困難分野のてこ入れ）				

40